



新しい学校区

▶▶ 相良地域の小中学校を合わせて1校
榛原地域の小中学校を合わせて1校

1学年3～4クラス
(開校目標時の児童
生徒数の予測から)

理由1：現在研究・試行している小中一貫教育をより充実させることができる。

理由2：地域とのつながりや地域性を継承できる範囲である。



牧之原市立の学校

新



榛原地域の小中一貫校

現在



榛原中学校



川崎小学校



細江小学校



勝間田小学校



坂部小学校

新



相良地域の小中一貫校

現在



相良中学校



相良小学校



菅山小学校



萩間小学校



地頭方小学校

学校組合立の学校

牧之原小・中学校

(牧之原市菊川市学校組合)

今回の再編対象にするか
引き続き検討し、菊川市と協議して
総合的に判断することを求める

[理由]

- ▶ 単学級だが、高台にあり、新たな拠点づくりの開発計画がある。
- ▶ 菊川市との境にある。

地頭方地区

(中学校は御前崎市牧之原市学校組合)

相良地域の小中一貫校に通う
ことを前提に、御前崎市と
協議することを求める

[理由]

- ▶ 小学校は市立、中学校は学校組合立である。
- ▶ 小学校は単学級で津波浸水想定区域にある。

これからの学校を考えよう

— 学校再編特集 第2回 新たな小中一貫校をつくろう —

広報まきのはら2月号に引き続き、学校再編計画策定委員会が検討している「学校再編計画素案(案)」の内容についてお知らせします。今回は、これからの学校をつくるための5つの基本方針に基づいた、学校再編の考え方や今後の進め方についてです。

問い合わせ 教育総務課 石川奈美 ☎332642

新たな小中一貫校を目指します

現在、市では、子ども一人一人の可能性を伸ばし、次代を切り拓くために必要な人間力を育むため、「小中一貫教育」を研究・試行しながら進めています。小中一貫教育とは、中学校卒業時の子どもの姿を小・中学校の教職員が共有し、義務教育9年間を通じた教育課程をつくり、系統的な学びを目指す教育のことです。市では、教職員だけでなく、地域や家庭とも、目指す子ども像を共有して教育活動ができるようにと考えています。

学校再編計画策定委員会は、この取り組みをより充実させるため、今離れている小・中学校を「施設一体型小中一貫校」として小・中学校を同じ場所につくることを提案しています。また、校舎の配置などについては、新しい学校施設を検討するときに、関係する皆さんに考えてもらいたいと思っています。

牧之原市が 小中一貫教育で目指す姿

小中一貫校にすることで、目指す姿がより実現しやすくなるようにします。

子ども 次代を切り拓く力をつける	学校 9年間のつながりある教育
教員 一人一人の子どもを支える	家庭・地域 子どもの成長を見守り、共に育む

* 牧之原市小中一貫教育推進計画より

考え方



新しい学校の規模 ▶▶ 開校のときには1学年3クラス以上を基本にします

[考え方]

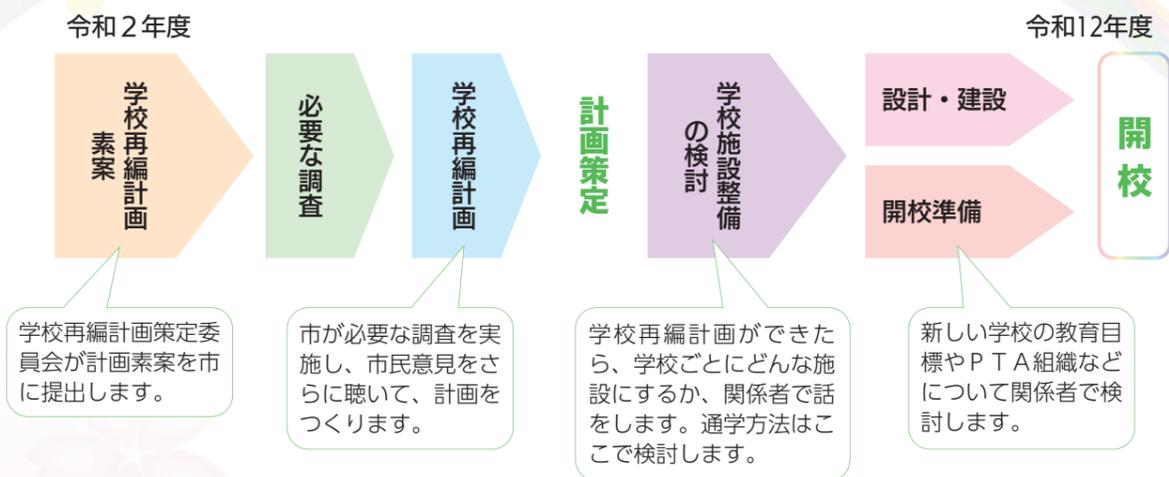
- ▶ 子どもたちは、集団の中で多くの人と共に考えあい、理解し合い、切磋琢磨する中で、自分らしい生き方を見出すことができるようになる。そして、それがこれからの時代に必要な人間力を伸ばすことにつながる。
- ▶ そのための環境としては、一定以上の集団規模が必要。子どもたちはクラス替えにより、より多くの同級生と触れ合う機会を得ることができる。

開校時に1学年3クラス以上を基本とすることで、
長期的に単学級にならない人数と規模が確保できる。



学校再編計画策定委員会が教育委員会へ学校再編計画素案を提出した後は、検討主体が教育委員会に移ります。そのため、学校再編計画素案を提出するときには、「今後の進め方」や「配慮してほしいこと」についても次のとおり提案をしていきます。

今後の進め方



市や教育委員会に配慮してほしいこと

子どもたちへの支援・ケア

- 再編時の子どもたちの不安を少なくし、新しい学校への期待を大きくできるよう、再編前から学校間で交流をする
- 再編後もきめ細やかな支援をする

通学方法と通学路の安全性の確保

- 通学方法は、徒歩と自転車を主とし、遠距離の場合はスクールバスとするが、その距離は、年齢や発達段階、高低差、地域性に応じて協議する
- 通学路の安全を確保する

既存施設の利活用の検討

- 老朽化の程度、他の公共施設とのバランス、市のまちづくりの観点から考える必要があるため、新しい施設の検討とは別の委員会などで検討する

学校組合構成市との協議

- 御前崎市・菊川市と、それぞれ十分な協議をする

多様なニーズへの対応

- 特別な支援や日本語指導などが必要な子どもたちも含め、すべての子どもたちが安心してのびのび生活・学習できる環境づくりを推進する

地域性の継続

- 地域、保護者、学校が大切にしたいものや思いが継承されるように配慮する
- 活動拠点を協議する

施設の効率的・効果的整備

- 学校の機能を最優先に、効果的な整備手法と内容を検討する
- まちづくりの観点を踏まえて市全体で取り組む
- 広く市民の意見を取り入れ、地域に愛され子どもたちの誇りになる学校を目指す

市民への周知と意見を聞く機会

- きめ細やかな周知と情報提供等を行う
- 広く市民の意見を聞く機会を持つ

考え方



3 学校の場所

▶▶ 児童生徒が安心して学べることを最優先に考え、自然災害に強い施設とします



場所の条件

- ▶ 津波浸水想定区域外で、各種災害に強い施設が建てられること。
- ▶ 子どもたちの通いやすさを考慮し、できるだけ多くの児童生徒が、徒歩または自転車で通うことができる場所とすること。
- ▶ 学校周辺の道路やインフラなどの状況を踏まえ、関係部署と連携し、都市計画などの他計画との融合を図って選定すること。

学校再編計画素案で選定するのはエリアまでです。答申を受けて、教育委員会が、選定したエリア内の候補地について必要な調査・調整をし、学校を建設するのにもっとも適した場所を総合的に判断して場所を決めるようになります。

考え方



4 開校の時期

▶▶ 令和12（2030）年度までの開校を目指します

災害に強く、教育活動がより充実する施設をできる限り早くに整備することで、

- ▶ 子どもたちの**安心・安全の確保と学びの充実**につながります。
- ▶ 牧之原市に**住みたいと思う人を増やす魅力の1つ**となります。



◀ もっと詳しく知りたい場合は、こちらから「学校再編計画素案（案）」をお読みください。

牧之原市 再編計画素案 検索